



門ト1
號 3905
卷 8



ス、メ九編

福澤諭吉著

學問ノ旨ヲ二様ニ記シテ
中津ノ舊友ニ贈ル文
人ノ心身ノ働ヲ細ニ見レバコレヲ分テ二様ニ區
別ス可シ第一ハ一人タル身ニ就テノ働ナリ第二
ハ人間交際ノ仲間ニ居リ其交際ノ身ニ就テノ働
ナリ
第一 心身ノ働ヲ以テ衣食住ノ安樂ヲ致スモノ
コレヲ一人ノ身ニ就テノ働ト云フ然リト雖モ天
地間ノ萬物一トシテ人ノ便利タラザルモノナシ

一粒ノ種ヲ蒔ケバ二三百倍ノ實ヲ生ジ深山ノ樹
 木ハ培養セザルモヨク成長シ風ハ以テ車ヲ動カ
 ス可シ海ハ以テ運送ノ便ヲ爲ス可シ山ノ石炭ヲ
 堀リ河海ノ水ヲ汲ミ火ヲ點ジテ蒸氣ヲ造レバ重
 大ナル舟車ヲ自由ニ進退ス可シ此他造化ノ妙工
 ヲ計レバ枚擧ニ遑アラズ人ハ唯コノ造化ノ妙工
 ヲ藉リ僅ニ其趣ヲ變ジテ以テ自カラ利スルナリ
 故ニ人間ノ衣食住ヲ得ルハ既ニ造化ノ手ヲ以テ
 九十九分ノ調理ヲ成シタルモノヘ人力ニテ一分
 ヲ加フルノミノコトナレバ人ハ此衣食住ヲ造ルト
 云フ可ラズ其實ハ路傍ニ棄タルモノヲ拾取ルガ

如キノミ
 ○故ニ人トシテ自カラ衣食住ヲ給スルハ難キ事
 ニ非ズコノ事ヲ成セバトテ敢テ誇ル可キニ非ズ
 固ヨリ獨立ノ活計ハ人間ノ一大事汝ノ額ノ汗ヲ
 以テ汝ノ食ヲ喰ヘトハ古人ノ教ナレトモ余ガ考ニ
 ハコノ教ノ趣旨ヲ達シタレバトテ未ダ人タルモ
 ノ、務ヲ終レリトスルニ足ラズ此教ハ僅ニ人ヲ
 シテ禽獸ニ劣ルヲ莫ラシムルノミ試ニ見ヨ禽獸
 魚虫自カラ食ヲ得ザルモノナシ管ニコレヲ得テ
 一時ノ満足ヲ取ルノミナラズ蟻ノ如キハ遙ニ未
 來ヲ圖リ穴ヲ堀テ居處ヲ作り冬日ノ用意ニ食料

ヲ貯ルニ非ズヤ然ルニ世ノ中ニハ此蟻ノ所業ヲ
以テ自カラ満足スル人アリ今其一例ヲ舉ン男子
年長シテ或ハ工ニ就キ或ハ商ニ歸シ或ハ官員ト
爲リテ漸ク親類朋友ノ厄介タルヲ免カレ相應ニ
衣食シテ他人ヘ不義理ノ沙汰モナク借屋ニアラ
ザレバ自分ニテ手輕ニ家ヲ作り家什ハ未ダ整ハ
ズ凡細君丈ケハ先ヅトリアヘズトテ望ノ通りニ
若キ婦人ヲ娶リ身ノ治リモ付テ繪約ヲ守リ子供
ハ澤山ニ生レタレ凡教育モ一通リノ事ナレバ廿
シタル錢モイラズ不時病氣等ノ入用ニ三十圓カ
五十圓ノ金ニハイツモ差支ナクシテ細ク永ク長

久ノ策ニ心配シ兎ニモ角ニモ一軒ノ家ヲ守ル者
アレバ自カラ獨立ノ活計ヲ得タリトテ得意ノ色
ヲ爲シ世ノ人モコレヲ目シテ不羈獨立ノ人物ト
云ヒ過分ノ勳ヲ爲シタル手柄モノ、ヤウニ稱ス
レ凡其實ハ大ナル間違ナラズヤ此人ハ唯蟻ノ門
人ト云フ可キノミ生涯ノ事業ハ蟻ノ右ニ出ルヲ
得ズ其衣食ヲ求メ家ヲ作ルノ際ニ當テハ額ニ汗
ヲ流セシトモアラン曾ニ心配セシトモアラン古
人ノ教ニ對シテ恥ルトナシト雖凡其成功ヲ見レ
バ萬物ノ靈タル人ノ目的ヲ達シタル者ト云フ可
ラズ

○右ノ如ク一身ノ衣食住ヲ得テコレニ満足ス可
キモノトセバ人間ノ渡世ハ唯生レテ死スルノミ
其死スル時ノ有様ハ生レシ時ノ有様ニ異ナラズ
斯ノ如クシテ子孫相傳ヘナバ幾百代ヲ經ルモ一
村ノ有様ハ舊ノ一村ニシテ世上ニ公ノ工業ヲ起
ス者ナク船ヲモ造ラズ橋ヲモ架セズ一身一家ノ
外ハ悉皆天然ニ任セテ其土地ニ人間生々ノ痕跡
ヲ遺ストナカル可シ西人云ヘルトアリ世ノ人皆
自カラ満足スルヲ知テ小安ニ安ンゼナバ今日ノ
世界ハ開闢ノ時ノ世界ニ異ナルトナカル可シト
此事誠ニ然リ固ヨリ満足ニモ二様ノ區別アリテ

其界ヲ誤ル可ラズ一ヲ得テ又二ヲ欲シ隨テ不足
ヲ覺ヘ遂ニ飽クトヲ知ラザルモノハコレヲ慾ト
名ケ或ハ野心ト稱ズ可シト雖モ我心身ノ働ヲ擴
テ達ス可キノ目的ヲ達セザルモノハコレヲ蠢愚
ト云フ可キナリ
第二 人ノ性ハ群居ヲ好ミ決シテ獨歩孤立スル
ヲ得ズ夫婦親子ニテハ未ダ此性情ヲ満足セシム
ルニ足ラズ必ズシモ廣ク他人ニ交リ其交愈廣ケ
レバ一身ノ幸福愈大ナルヲ覺ルモノニテ卽是レ
人間交際ノ起ル由縁ナリ既ニ世間ニ居テ其交際
中ノ一人トナレバ亦隨テ其義務ナカル可ラズ凡

身
心
編

ソ世ニ學問ト云ヒ工業ト云ヒ政治ト云ヒ法律ト
云フモ皆人間交際ノタメニスルモノニテ人間ノ
交際アラザレバ何レモ不用ノモノタル可シ政府
何ノ由縁ヲ以テ法律ヲ設ルヤ惡人ヲ防ギ善人ヲ
保護シ以テ人間ノ交際ヲ全カラシメンガタメナ
リ學者何ノ由縁ヲ以テ書ヲ著述シ人ヲ教育スル
ヤ後進ノ智見ヲ導テ以テ人間ノ交際ヲ保タンガ
タメナリ往古或ル支那人ノ言ニ天下ヲ治ルノ肉
ヲ分ツガ如ク公平ナラント云ヒ又庭前ノ草ヲ除
クヨリモ天下ヲ掃除セント云ヒシモ皆人間交際
ノタメニ益ヲ爲サントスルノ志ヲ述ヘタルモノ

ニテ凡ソ何人ニテモ聊カ身ニ所得アレバコレニ
由テ世ノ益ヲ爲サント欲スルハ人情ノ常ナリ或
ハ自分ニハ世ノタメニスルノ意ナキモ知ラズ識
ラズシテ後世子孫自カラ其功德ヲ蒙ルノアリ人
ニ此性情アレバコソ人間交際ノ義務ヲ達シ得ル
ナリ古ヨリ世ニ斯ル人物ナカリセバ我輩今日ニ
生レテ今ノ世界中ニアル文明ノ德澤ヲ蒙ルヲ得
ザル可シ親ノ身代ヲ讓受レバコレヲ遺物ト名ク
ト雖此遺物ハ僅ニ地面家財等ノミニテコレヲ
失ヘバ失フテ跡ナカル可シ世ノ文明ハ則チ然ラ
ズ世界中ノ古人ヲ一体ニ視做シコノ一体ノ古人

ヨリ今ノ世界中ノ人ナル我輩へ讓渡シタル遺物
ナレバ其洪大ナルコト地面家財ノ類ニ非ズサレヒ
今誰ニ向テ現ニコノ恩ヲ謝ス可キ相手ヲ見ズコ
レヲ譬ヘバ人生ニ必用ナル日光空氣ヲ得ルニ錢
ヲ須ヒザルガ如シ其物ハ貴シト雖モ所持ノ主人
アラバ唯コレヲ古人ノ陰德恩賜ト云フ可キノミ
○開闢ノ初ニハ人智未ダ開ケズ其有様ヲ形容ス
レバ恰モ初生ノ小兒ニ未ダ智識ノ發生ヲ見ザル
者ノ如シ譬ヘバ麥ヲ作テコレヲ粉ニスルニハ天
然ノ石ト石トヲ以テコレヲ鶉碎キシコトナラン其
後或人ノ工夫ニテ二ノ石ヲ圓ク平タキ形ニ作リ

其中心ニ小サキ孔ヲ掘リテ一ノ石ノ孔ニ木歟金
ノ心棒ヲサシコノ石ヲ下ニ据ヘテ其上ニ一ノ石
ヲ重子下ノ石ノ心棒ヲ上ノ石ノ孔ニハメ此石ト
石トノ間ニ麥ヲ入レテ上ノ石ヲ廻ハシ其石ノ重
サニテ麥ヲ粉ニスル趣向ヲ設ケタルコトナラン即
是レ挽碓ナリ古ハコノ挽碓ヲ人ノ手ニテ廻ハス
コトナリシガ後世ニ至テハ碓ノ形ヲモ次第ニ改メ
或ハコレヲ水車風車ニ仕掛ケ或ハ蒸氣ノ力ヲ用
ルコト爲リテ次第ニ便利ヲ増シタルナリ何事モ
コノ通りニテ世ノ中ノ有様ハ次第ニ進ミ昨日便
利トセシモノモ今日ハ迂遠ト爲リ去年ノ新工夫

モ今年ハ陳腐ニ屬ス西洋諸國日新ノ勢ヲ見ルニ
電信蒸氣百般ノ器械隨テ出レバ隨テ面目ヲ改メ
日二月ニ新奇ナラザルハナシ嘗ニ有形ノ器械ノ
ニ新奇ナルニ非ズ人智愈開レバ交際愈廣ク交際
愈廣ケレバ人情愈和ラギ萬國公法ノ說ニ權ヲ得
テ戰爭ヲ起ス可輕卒ナラズ經濟ノ議論盛ニシテ
政治商賣ノ風ヲ一變シ學校ノ制度著書ノ体裁政
府ノ商議議院ノ政談愈改レバ愈高ク其至ル所ノ
極ヲ期ス可ラズ試ニ西洋文明ノ歴史ヲ讀ミ開闢
ノ時ヨリ紀元千六百年代ニ至テ卷ヲ閉シ二百年
ノ間ヲ超テ頓ニ千八百年代ノ卷ヲ開テコレヲ見

ハ誰カ其長足ノ進歩ニ驚快セザルモノアラシヤ
殆ド同國ノ史記トハ信ジ難カル可シ然リ而シテ
其進歩ヲ爲セシ所以ノ本ヲ尋レバ皆是レ古人ノ
遺物先進ノ賜ナリ
○我日本ノ文明モ其初ハ朝鮮支那ヨリ來リ爾來
我國人ノ力ニテ切瑳琢磨以テ近世ノ有様ニ至リ
洋學ノ如キハ其源遠ク寶歷年間ニ在リ蘭學事始
本ヲ見輓近外國ノ交際始リシヨリ西洋ノ說漸ク
ル可シ世上ニ行ハレ洋學ヲ教ル者アリ洋書ヲ譯スル者
アリ天下ノ人心更ニ方向ヲ變シテコレガタメ政
府ヲモ改メ諸藩ヲモ廢シテ今日ノ勢ニ爲リ重テ

文明ノ端ヲ開キシモ是亦古人ノ遺物先進ノ賜ト云フ可シ

○右所論ノ如ク古ノ時代ヨリ有力ノ人物心身ヲ勞シテ世ノタメニ事ヲ爲ス者少ナカラズ今コノ人物ノ心事ヲ想フニ豈衣食住ノ饒ナルヲ以テ自カラ足レリトスル者ナランヤ人間交際ノ義務ヲ重ンジテ其志ス所蓋シ高遠ニ在ルナリ今ノ學者ハ此人物ヨリ文明ノ遺物ヲ受ケテ正シク進歩ノ先鋒ニ立タルモノナレバ其進ム所ニ極度アル可ラズ今ヨリ數十ノ星霜ヲ經テ後ノ文明ノ世ニ至レバ又後人ヲシテ我輩ノ德澤ヲ仰グコト今我輩ガ

古人ヲ崇ムガ如クナラシメザル可ラズ概シテコレヲ云ヘバ我輩ノ職務ハ今日コノ世ニ居リ我輩ノ生々シタル痕跡ヲ遺シテ遠クコレヲ後世子孫ニ傳フルノ一事ニ在リ其任亦重シト云フ可シ豈唯數卷ノ學校本ヲ讀ミ商ト爲リ工ト爲リ小吏ト爲リ年ニ數百ノ金ヲ得テ僅ニ妻子ヲ養ヒ以テ自カラ満足ス可ケンヤコハ唯他人ヲ害セザルノミ他人ヲ益スル者ニ非ズ且事ヲ爲スニハ時ニ便不便アリ苟モ時ヲ得ザレバ有力ノ人物モ其力ヲ逞フスルコト能ハズ古今其例少ナカラズ近クハ我輩里ニモ俊英ノ士君子アリシハ明ニ我輩ノ知ル所

ナリ固ヨリ今ノ文明ノ眼ヲ以テコノ士君子ナル者ヲ評スレバ其言行或ハ方向ヲ誤ルモノ多シト雖ヒコハ時論ノ然ラシムル所ニテ其人ノ罪ニ非ズ其實ハ事ヲ爲スノ氣力ニ乏シカラズ唯不幸ニシテ時ニ遇ハズ空シク寶ヲ懷ニシテ生涯ヲ渡リ或ハ死シ或ハ老シ遂ニ世上ノ人ヲシテ大ニ其徳ヲ蒙ラシムルヲ得ザリシハ遺憾ト云フ可キノミ今ヤ則チ然ラズ前ニモ云ヘル如ク西洋ノ說漸ク行ハレテ遂ニ舊政府ヲ倒シ諸藩ヲ廢シタルハ唯コレヲ戰爭ノ變動ト視做ス可ラズ文明ノ功能ハ僅ニ一場ノ戰爭ヲ以テ止ム可キモノニ非ズ故ニ

コノ變動ハ戰爭ノ變動ニ非ズ文明ニ促サレタル人心ノ變動ナレバ彼ノ戰爭ノ變動ハ既ニ七年前ニ止テ其跡ナシト雖ヒ人心ノ變動ハ今尚依然タリ凡ソ物動カザレバコレヲ導ク可ラズ學問ノ道ヲ首唱シテ天下ノ人心ヲ導キ推シテコレヲ高尚ノ域ニ進マシムルニハ特ニ今ノ時ヲ以テ好機會トシコノ機會ニ逢フ者ハ即チ今ノ學者ナレバ學者世ノタメニ勉強セザル可ラズ○以下十編ニ續ク

學問ノス、メ九編終

九

官許
明治七年
五月出版



學問ノス、メ九編終

小西茂助

433132

小西遊記